

## 4. 広島大学大学院「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」

広島大学は、福島原発事故に際し多数の教職員を派遣するなど福島復興を支援してきた。この活動の中で、原子力災害は健康、環境、社会等に深刻な影響や被害を与えることを改めて知ると同時に、この様な多面的で複合的な災害からの復興を指導できるリーダーが決定的に不足していることを身を持って認識した。原子力災害からの復興には、医科学のみならず放射線科学、環境科学、社会科学、社会心理学、教育学、工学などの分野横断的な幅広い学術と技術が必要である。しかし、現在の大学院教育では、こ



の様な分野横断的で学際的な教育は行われていない。これは、我が国に限られたことでは無く、国際的にもこの様な人材の教育は行われていない。広島大学は、被爆地に在る総合大学として原爆からの復興を学術面で支えてきた歴史と経験を有し、この様なリーダーを育成するために必要な被ばく医療、放射線環境科学、原爆復興社会科学などの専門家や資料及び技術が蓄積されている。このリーダー育成は、被爆地広島や広島大学の使命と考え、大学院博士課程教育プログラム「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」を設立した。プログラムには、広島大学の他にHICAREの構成機関である放射線影響研究所やHICAREメンバーが参加しており、オール広島による連携体制が構築されている。幸いなことに、このプログラムは、文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム」として採択され、2011年(平成23年度)より活動を開始している。プログラム責任者は、広島大学副学長でありHICARE理事の神谷研二が務めている。これまでに11か国からの留学生を含む国内外から5学年38名の学生が入学しており、本プログラムを通して、放射線災害からの復興を主導できるグローバルリーダーの育成を進めている。

### (1) プログラムの特徴

本プログラムは、従来の研究者養成を主眼とした大学院教育とは一線を画し、複数の分野を横断する教育を基盤とした4年または5年一貫教育であり、専門性と俯瞰力、および実践力を備えた放射線災害復興の専門家の育成を目的としている。本プログラムは3つのコースから構成され、4年制の放射線災害医療コースでは、放射線災害から生命を護る人材を、5年制の放射能環境保全コースでは、放射能から環境を護る人材を、同じく5年制の放射能社会復興コースでは、放射能から人と社会を護る人材を育成する。

4年制コースでは医療系、5年制コースでは理工農系、人文社会系の多様な分野の学生を受け入れる。学生間の知識のギャップを埋めるため、初年度と2年度には全ての学生が共通科目として放射線生物学や環境放射線学、環境学、

放射線災害史等に関する科目を履修する。さらに、国際的なリーダーを育成するために、フェニックスリーダー共通科目としてリーダーシップセミナー、ネイティブの講師を含めた徹底的な語学学習や、総合力を磨くために、分野の垣根を越えた分野融合セミナー等を実施する。一方、本プログラムの大きな特徴は、実践力を涵養することである。そのため、国内外の被災地域や機関等でのフィールドワークやインターンシップが義務付けられている。フィールドワークでは、福島やチェルノブイリでの原発事故被災地域を訪問し、放射線災害で生じる深刻で様々な問題を直接把握し、解決するために必要な学術の方向性を修得する。また、インターンシップは、IAEA等の国際機関や国内外の著名な研究教育機関、行政機関、企業で行われており、学生を教育するための産学官の国際ネットワークの構築が進んでいる。

本プログラムは、最終的には人材育成とともに、新たな学術分野として放射線科学、医科学、環境科学、災害科学、社会科学等を統合した「放射線災害復興学」の確立を目的としている。

## (2) 国際ネットワークの構築とHICAREとの連携

本プログラムでは、毎年国際シンポジウムを開催している。このシンポジウムでは、国際原子力機関(IAEA)、国際放射線防護委員会(ICRP)、国連科学委員会(UNSCEAR)の専門家や国内外の放射線災害に関係する著名な専門家を招聘し、講演と議論を通じた人的ネットワークを構築している。また、フランス原子力防護評価センター(CEPN)との包括協定の締結やCEPNに広島大学の放射線災害復興国際協力センターの設置を実現した。さらに、今年度は産学官コンソーシアム第2回国際シンポジウムを開催し、国際機関、研究機関、行政機関、及び企業に加え「アジアにおける放射線防護、放射線災害への備えと人材育成」と題してインドネシア原子力庁/BATAN長官を始め、ベトナム、マレーシア、カンボジアから指導的立場の専門家を招請し、人材育成のネットワーク構築を進めた。この様な中で、特にIAEAとの連携は、HICAREのCollaboration Centreとしての役割としても非常に重要で、HICAREとIAEAが協同で開催する「緊急被曝医療研修コース」等の研修やHICAREが主催する国際シンポジウムに学生が積極的に参加し、HICAREを通じた国際交流を深めている。